

鈴小 ◆ だより

伊丹市立鈴原小学校

令和8年5月18日号



朝、下足室で、登校してくる子どもたちを迎えています。4月は泣きながら来たり、保護者の方と登校してきたりしている1年生もいましたが、最近ではそのような光景を見ることはほとんどなくなりました。大人社会と同じく学校も、楽しいことや嬉しいことばかりあるのではなく、悲しいことや嫌なこともあり、その中で成長していきます。子どもたちが安心して登校し、様々な出来事や気持ちを経験しながら成長できるように「だれもが行きたくなる学校」を目指してまいりますので、保護者の方々もあたたかい見守りをよろしく願います。

すてきなあいさつ、ありがとう

5月8日(金)の全校朝礼で、以下のようなお話をしました。

朝、校長先生は下足室で「おはよう」とあいさつをしています。その時のみんなの反応が3パターンあります。

- ① 校長先生から声をかける前に、自分の方から「おはよう」と言ってくれる
- ② 自分からは言ってくれないけれど、校長先生から「おはよう」と声をかけると「おはよう」と返してくれる
- ③ 校長先生から「おはよう」と言っても、あいさつを返してくれない

さあ、自分はどのパターンですか？ そして、自分の目指す姿はどのパターンですか？

このお話をした後の月曜日の朝に、「みんなはどのパターンを目指してくるのかな？」と楽しみにしていると、とってもたくさんの方が1つ目のパターン「自分からあいさつ」を実行してくれました。「自分の方が先にあいさつするぞ！」という気持ちの表れなのか、だいが離れた所から大きな声であいさつをしてくれる人。他の人とあいさつやおしゃべりをしていると、その人とのおしゃべりが終わるのを待っていてあいさつをしてくれる人。恥ずかしそうにしているけれど、ちゃんと目を見てあいさつをしてくれる人。とってもたくさんの方のあいさつに、返すのが大変なぐらいですが、みんなの「おはよう」に朝から元気とやる気もらっています。

「あいさつをしましょう」とお話ししたわけではないのですが、自ら一番素敵な姿を目指し、またすぐに実行できるすずっ子の素晴らしさを実感した出来事でした。



朝、下足室であいさつをしていると、子どもたちが登校中に拾ったものをプレゼントしてくれることがあります。この日は、大きな葉っぱが届きました、写真ではわかりにくいのですが、子どもの顔と同じぐらいの大きさの葉っぱです。その葉っぱを見た1年生が「てんぐのうちわや！」と言っていました。1年生でもてんぐを知っていることにちょっと驚きました。

「てんぐ」は昔は山に住んでいて人を迷わせるこわい妖怪と言われていたそうです。でも時代とともに、修行を積んだ強い存在で、山の守り神のように言われる存在になったそうです。てんぐのように、まわりの人にとって良い存在になっていけるよう、成長していきたいですね。